
1. 学歴

2002 年 3 月 慶應義塾大学経済学部卒業
2002 年 4 月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻修士課程入学
2004 年 3 月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻修士課程課程修了
2004 年 4 月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻博士課程入学
2009 年 3 月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻博士課程修了
2009 年 3 月 東京大学博士(経済学)号取得

2. 職歴・研究歴

2009 年 4 月 慶應義塾大学経商連携グローバル COE 研究員(PD)
2010 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科講師

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史 C

(b) 大学院

ワークショップ, リサーチワークショップ

B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部授業(「経済史 C」)では近世・近代(17~20 世紀)における日本経済の変容過程について、産業・流通・貿易構造といったマクロ的視点だけでなく、身近なテーマや人々の営み(労働や生活の変化、私が研究対象としている温泉地や観光地における温泉観光業の動向、当時の人々の余暇の過ごし方など)に関するミクロ的な視点にも焦点をあてながら授業を行っています。

学生には、複雑化する現代社会の諸問題を解決するためにも、歴史研究を通して、日本や世界の現状を相対化する眼を養ってもらいたいと考えています。そのためにも、現状の日本経済や経済史について幅広い関心を持ってもらう一方、大量にあふれる情報や知識に流されない力(能力)を大学時代に身につけて卒業してほしいと思います。「経済史」という学問は、歴史的に物事を把握することで現在を相対化する視点を養うことができる学問です。学部ゼミでは、周りの情報に流されない洞察力を身につけてもらうために、日本経済史の知識や情報を伝えるだけでなく、自分の生活や住む地域との関わりを考えながら、地域経済のあり方や歴史に関心を持てるように、資料収集やフィールド調査の方法など自分で資料収集ができる力を養います。そして、自分が関心を持ったテーマについての実証論文(卒業論文)の執筆がゼミ活動の中心になります。

4. 主な研究テーマ

(1) 近現代日本の資源管理(温泉資源を中心に)

近代以降の温泉地における源泉利用のあり方を分析することで、近代日本の「近代的土地所有権」制度下における資源利用の特質を解明するが目的です。地域社会で秩序づけられていた資源利用のあり方が、近代以降の「近代的土地所有権」の確立の中で、どのように国家の公共的な機能に組み込まれ、他方、地域の公共関係の生成とどのような関わりを持ったのかが私の問題関心になります。

(2) 食品産業史

生活に身近な産業である食品産業の歴史的展開について、主に、第一次大戦期から現代までの缶詰産業を対象に研究を行っています。不安定な原材料供給と多様化する消費動向との間で企業間での競争や企業経営がどのように行われているのか、原材料―生産―流通―消費の連関に着目し分析しています。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

「近代日本における資源管理―温泉資源を事例に―」(博士論文), 東京大学, 2009 年。

(b) 論文(査読つき論文には*)

* 「温泉地における源泉利用―戦前期熱海温泉を事例に―」『歴史と経済』191 号, 2006 年, 41-58 頁。

* 「地域社会における資源管理―戦間期の熱海温泉を事例に―」『社会経済史学』73 巻 1 号, 2007 年, 3-25 頁。

「温泉観光地の形成と発展―戦間期の静岡県を事例に―」『東西交流の地域史―列島の境目・静岡』, 2007 年, 185-202 頁。

* 「株式会社による源泉管理―長岡鉱泉株式会社を事例に―」『経営史学』43 巻 3 号, 2008 年, 3-27 頁。

「缶詰産業の企業化と生産地域の展開―静岡県を事例に―」加瀬和俊編『戦前日本の食品産業―1920 年～30 年代を中心に―』(東京大学社会科学研究所研究シリーズ ISS Research Series No.32), 2009 年, 103-128 頁。

「温泉権取引の展開―戦前期熱海温泉を事例に―」慶應義塾大学経商連携グローバル COE 「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」, DP2009-30, ディスカッションペーパー, 2010 年, 1-30 頁。

「新聞販売業の再編と展開―関東地方を中心に―」加瀬和俊編『戦間期日本の新聞産業―経営事情と社論を中心に―』(東京大学社会科学研究所研究シリーズ ISS Research Series No.48), 2011 年, 103-128 頁。

* 「産業化による資源利用の相克―戦前期常磐湯本温泉を事例に―」『社会経済史学』, 77 巻 4 号, 2012 年, 505-525 頁。

* 「書評論文 金澤史男『近代日本地方財政史研究』の理論的射程―経済史と財政史の境界からの考察」『三田学会雑誌』105 巻 1 号, 2012 年, 87-97 頁。

「近現代日本における「資源」利用・管理の歴史研究 ―経済史研究を中心に―」『歴史学研究』893 号, 2012 年, 57-63 頁。

「自然資源経済への歴史学的アプローチ」『一橋経済学』6 巻 1 号, 2012 年, 1-14 頁。

(d) その他

書評 岡田知弘編著『京都経済の探究—変わる生活と産業—』『歴史と経済』200 号, 政治経済学・経済史学会, 2008 年, 69-70 頁。

「伊豆の温泉と学童疎開—熱海温泉竜宮閣—」静岡県戦争遺跡研究会『静岡県の戦争遺跡を歩く』, 2009 年, 149-152 頁。

本棚「金澤史男著『自治と分権の歴史的文脈』」『月刊東京』東京自治問題研究所, 319 号, 2010 年, 37-42 頁。

批評と紹介 小川原正道『福沢諭吉「官」との闘い』『福沢手帖』, 福沢諭吉協会, 154 号, 2012 年, 18-22 頁。

「温泉資源から見た資源利用の歴史」『教養としての経済学』, 有斐閣, 2013 年, 212-219 頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

* 「源泉利用の歴史的展開—熱海温泉を事例に—」日本温泉地域学会, 熱海起雲閣, 2010 年 6 月。

「産業化による資源利用の相克—常磐湯本温泉を事例に—」社会経済史学会, 第 79 回全国大会自由論題, 関西学院大学, 2010 年 6 月。

「第二次大戦後の温泉地における集中管理事業の展開」同時代史学会, 第 30 回定例研究会, 立教大学, 2012 年 7 月。

「源泉利用を通じた地域運営—戦前期道後湯之町を事例に—」政治経済学・経済史学会, 秋季大会自由論題, 慶應義塾大学, 2012 年 11 月。

(b) 国内研究プロジェクト

「近現代日本における資源管理—温泉資源の利用秩序を事例に—」科学研究費補助金(研究活動スタート支援), 研究代表者, 2010 - 2011 年度。

「「日韓相互認識」研究の深化のために」科学研究費補助金(基盤研究 A), 研究分担者(研究代表者: 吉田裕), 2010 - 2014 年度。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

附属図書委員会委員(2011 年 4 月 - 2013 年 3 月)

全学共通教育委員(2011 年 9 月 -)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

埼玉大学経済学部非常勤講師(2008 - 2009 年度)

獨協大学経済学部非常勤講師(2010 年度)

(b) 所属学会および学術活動

政治経済学・経済史学会(研究委員 2011 年度 -)

社会経済史学会

経営史学会

歴史学研究会(編集委員 2010 年度 - 2012 年度)

同時代史学会(理事, 編集委員 2012 年度 -)
日本温泉地域学会

(c) 公開講座・開放講座

「温泉資源の開発と保全の歴史―大湯間欠泉の利用を中心に―」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひもとく』, 2009 年 8 月。

「高度成長期の熱海温泉―温泉観光業と働く女性達」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひもとく』, 2010 年 8 月。

「震災と温泉―災害史からみる温泉―」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひもとく』, 2011 年 9 月。

「熱海温泉における温泉組合―明治から現代まで」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひもとく』, 2012 年 11 月。

(d) その他

「高度経済成長期の日本―温泉地の形成と発展―」慶應義塾大学経済学部・ボーfum大学交流事業『高度経済成長期の日本経済について』, 2009 年 9 月。

「『近代日本地方財政史研究』をめぐって」金澤史男著作シンポジウム『歴史がつむいだ学問と実践』, 2010 年 12 月。

パネル・ディスカッション(コメント)「一国史 vs 広域史―グローバル・ヒストリーの枠組みは必要か?」社会経済史学会次世代研究者育成ワークショップ, 2012 年 9 月